

日本脊椎脊髄病学会 平成 26 年度第 2 回安全医療推進委員会 議事録

日時：平成 26 年 10 月 9 日(木) 午後 6:30-8:00

会場：城山観光ホテル(鹿児島市) 5 階 548 会議室

出席者：井口哲弘(理事)，根尾昌志(委員長)，村上英樹(書記)，今城靖明，大谷晃司，尾形直則，小澤浩司，田口敏彦，宮腰尚久

欠席者：なし

議事録

(報告事項)

1 . 2011 年手術合併症調査の論文について

JOS 投稿論文(過去 2 回の調査と比較した論文)について

Journal of Orthopaedic Science に投稿し、revise を求められていた論文

“ Japanese 2011 nationwide survey on complications from spine surgery ”

Y. Imajo, T. Taguchi, K. Yone, A. Okawa, K. Otani, T. Ogata, H. Ozawa, Y. Shimada, M. Neo, T. Iguchi
を前回の委員会での議論をもとに修正し再投稿した結果、2014.9.25.付で同誌に採択されたことが報告された。

(審議事項)

1 . 2011 年手術合併症調査に基づく新たな論文準備と今後の解析について

Spine 投稿論文(前期および後期高齢者に対する腰部脊柱管狭窄症手術の合併症)について

今城委員の下書き稿に対して委員全員で議論し、以下のように方針がまとまった。

- A) 論文のポイントを、「世界に先駆けて超高齢化社会を迎えた日本の高齢者手術の現状を報告し、高齢化が進む他国にとって有益な情報を提供すること」とする。結果について特に教訓(高齢者には低侵襲の方が良いとか、高齢者でも安全に手術できるとか)を強く主張しない。
- B) これに合わせてタイトルを、例えば “ Nationwide survey on surgical complications for elderly with lumbar spinal stenosis in a super-aging country ” など、ポイントに沿うものとする。
- C) 比較した各手術(Conventional surgery, Microscopic surgery, Microendoscopic surgery)の手術侵襲がわかるように、手術時間、出血量、instrumentation 使用の割合などを可能であれば入れる。
- D) その他に、論文構成について、投稿規定に合っているかどうか、用語の使い方など多くの意見が出された。

これに基づき、今城委員が推敲し、改訂稿を委員全員にメールで回し、再度意見を求めることとなった。その後は、今城委員と井口担当理事、根尾委員長で細かな推敲を行い、Spine に投稿することとなった。

頸椎症手術の合併症の解析、論文化について

今城委員より、高齢者の頸椎症性脊髄症と頸椎症性神経根症に対する手術についての荒データが提示され、委員全員で討議し、以下の様な方針が確認された。

- A) 手術数としては頸椎症性脊髄症の後方手術症例が圧倒的に多かった。その合併症では意外に神経根障害（C5 麻痺？）深部感染が多かったのが特徴であった。全身合併症では、原因不明だが、LSS と比べて脳（中枢神経系）の合併症が多かった。
- B) 以上より、論文をまとめる際は、日本に特徴的な頸椎症性脊髄症の後方手術に絞って、高齢者の合併症を調べることにする。

この論文化についてもデータの管理、処理が他の委員では困難なことから、今城委員が引き続き主として担当することが再度確認された。腰部脊柱管狭窄症の論文投稿後、来年度に徐々にまとめてもらうこととなった。

2．合併症調査以外の委員会活動について

XLIF、OLIF の合併症調査について

当委員会でも前回話題に上った議題であるが、根尾委員長から「新技術評価検証委員会から XLIF、OLIF の合併症調査が提案され、同委員会と松山理事が担当することが理事会で決定した」と報告された。

その他の委員会活動について

以下のような意見が出された。

- 合併症調査データの今後の使い方と保管をどうするか。また、論文化した合併症調査結果を国民へわかりやすく公表していくか。公表する場合、データが独り歩きする懸念があり、どのような形式で公表するか慎重に検討が必要である。
- 医療訴訟の判例集があれば便利であろう。
- インフォームドコンセントの代表的ひな型があれば良いのではないか。患者の安全を守ることも大事だが医師の安全を守ることも重要である。ひな型をホームページに掲載するのも 1 つの方法だが、法律家の関与が必要であろう。

上記については、来年度も引き続き検討していくことになった。

3．次回の委員会開催予定について

次回は日本脊椎脊髄病学会期間中の 4 月 17 日（金）朝 7 時からで仮決定。

次回委員会では頸椎の論文の討議をする。それまではメール審議とする。